



平成25年1月17日

## とよたエコフルタウン視察

平成25年1月17日(木)に、愛知県議会産業労働委員会の県内調査で、豊田市の「とよたエコフルタウン」を調査させていただきました。本年は産業労働委員会の委員長として、県内各地の最先端の企業及び事業を見学させていただき、愛知のものづくりの新たな芽吹きを感じさせていただくことができました。

今回の「エコフルタウン」は、旧加茂病院跡地に建設をされ、環境モデル都市の豊田市民が環境について考え、エコに対しての最新の研究成果を取り入れた生活、エコ社会を私たちの実生活に取り入れることが、どのようなカタチとして、実現されるのか、近未来の豊田市を表現した実証実験施設ともいえる場所であり、世界からも注目の施設となっております。



# 豊田 TOYOTA KOMEI JOURNAL 公明ジャーナル

平成25年 第8号

**TOYOTA  
KOMEI  
JOURNAL**

豊田公明ジャーナル

発行元：小島たけゆき事務所  
〒471-0822 豊田市水瀬町1 FAX: 0565-31-4194

## あいさつ

いつも皆様の真心からのご支援、本当に有り難うございます。皆様のご支援にお応えすべく、2月議会に向けて全力で取り組んでまいります。平成24年度予算を審議する「2月議会」いよいよ2月20日から始まりました。今回の議会では東日本大震災を踏まえ、「東海・東南海・南海地震」の3連動地震に備え、防災・減災対策の強化を訴えて参ります。先日、名古屋大学の福和教授の防災に対する講演を公明党愛知県本部でお聞きいたしました。その際福和教授は、命を守るという視点から防災の基本は、自宅の耐震改修及び家具の固定化を行うことで、命だけは助かるということでした。耐震改修は、県の耐震改修補助が、本年度から90万円となり、約2500件の改修が今年度を実施されました。もう一つの家具の固定化については、各市町村によって、器具の助成や固定化するための人員の派遣について、その基準が違って、県下統一した基準となるよう働きかけていきたい。またこの基準は、お年寄りやお一人で住んでいる方のみが対象で、一般の方たちの家具固定化は、自分でやることを基本としています。ホームセンター等で、家具の固定化に対するキャンペーン等行って、各家庭での家具固定化を進めるように県として運動をおこすよう働きかけて参ります。今年、我が公明党は、「大衆とともに語り、大衆とともに戦い、大衆の中に死んでゆく」との立党精神を宣言して以来、9月に50周年を迎えます。今再び立党精神を胸中深く刻み、何処までも大衆とともに戦い抜いてまいる決意です。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお申し上げます。

小島たけゆき

## 走り！動き！応える！ 先頭に立つ！

愛知県議会議員

**小島 たけゆき**

KOJIMA TAKEYUKI

プロフィール

- ・ 昭和28年8月8日 愛知県生まれ
- ・ 豊田市の夢母小学校、崇徳中学校を経て創価大学経済学部卒業
- ・ 昭和51年（財）愛知県環境保全公社に入社
- ・ 平成7年 豊田市議会議員に初当選
- ・ 平成11年 愛知県議会議員に初当選(現在3期)
- ・ 公明党県本部副幹事長、公明党県本部議政局長  
公明党西三河第11総支部長  
健康福祉委員会委員  
循環型社会形成調査特別委員会委員  
公営企業会計決算特別委員会委員

モットー：「我以外、皆、我が師」  
好きな人物：「ジョン・F・ケネディ」  
家族構成：「妻・二男一女・両親の7人家族」



平成25年1月30日

## 愛知県産業教育審議会について

1月30日に行われました。「愛知県産業教育審議会」に審議会委員として出席を致しました。これは、高等学校で行われているキャリア教育(進路指導)について、産業界、大学、有識者から意見をいただき、県立高等学校の生徒、先生に対し、今後どのようにしてキャリアアップを図り、もって県内産業の担い手を育成していく方策の検討、及び答申案の作成をつくるもので、私もこれまで言ってきました「若者の就業」をどう手助けしていくか、という課題に対する、助言の機会をいただきました。私からは、産業労働委員会委員長として、先日県内調査を実施し、そのおり、大手企業の研修センターに見学をしたところ、新入社員が入ると616時間77日間初心者研修をするが、基礎的な学力が小中高校においてなされていないため、実習を通じて、ものづくりの原点を教えていくと言うお話があり、こうした企業の実態から高等学校における実習について、専門学科においては、そうした企業の声を反映させた事業実施についても考えるべきである。と言う提案と”専門学科は、こうしたキャリア教育が行いやすい環境にあり、実現性が高い提言となっているが、普通科高校においては、従来からの偏差値教育がまだ残っており、いい大学に入れば、いい就職ができるという幻想がまだ残っているのではないかと指摘し、普通科高校から大学、そして今社会の第一線で活躍する先輩を多く輩出するそうした普通科高校は、こうしたOBの活用が少ないように感じるので、キャリア教育推進のため、こうしたOB活用を図っていただきたい事を要望させていただきました。

就職氷河期といわれて久しいですが、この問題の解決には様々超えなければならぬ課題があります。一つは企業の採用にあたっての姿勢、もう一つはそうした企業へ就職を望む若い人たちの意欲。これが相まって企業の将来を担う子どもたちも一生懸命努力し、もって地域の未来が開ける風土の形成があるのではないかと思います。これからももっと、こうした「若者の就業」について、提言、提案をしてまいります。



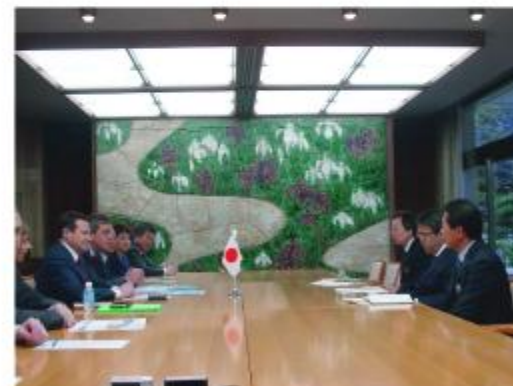
アクブラートブ市長(右)と

## ロシア・クラスノヤルスク市長との歓談

平成25年2月5日

2月3日より名古屋市に訪問中のロシア・クラスノヤルスク市長エドハーム・アクブラートブ市長は、2月5日に豊田市長太田稔彦市長を表敬訪問いたしました。その際、私小島たけゆきも日本とロシアの友好親善をすすめる、愛知の会の副会長(会長は元愛知県議片桐清高氏)として、会談に同席をいたしました。前日も大村秀章愛知県知事との会見にも同席し、愛知県、豊田市とロシアとの交流の一層の進展に寄与すべく、全力で取り組みました。日本とロシアの友好親善をすすめる愛知の会は、愛知県のシベリア抑留者の皆様が、抑留されていた場所に友人や亡骸があり、一度訪問して、弔ってやりたいとの思いの中、その方たちと一緒にシベリアのほぼ中央に位置するクラスノヤルスクという都市を訪問したことをきっかけにその地域との親善交流を超党派の議員、抑留者の方たち、企業家等で、構成される同会を立ち上げ今に至っております。その中、愛知県立大学に留学していたマリーナという学生がクラスノヤルスクに帰り、向こうでシベリア連邦大学内に愛知県、名古屋市、豊田市等との交流をすすめる交流団体を作り、交流の進展を図っております。私も団体創設以来、役員として同会に参画をし、交流発展のため、がんばっております。何とか知県議会においても、超党派の議員連盟をつくり、相互の交流の要になるものが必要と考えております。最近の愛知県の情勢を見ておりますと、周辺近隣諸国、特に東南アジアに向かって、企業進出が顕著で、そういった諸国と愛知

県との関係が希薄であったり、情報の不足がそういった企業の進出意欲を損ねたりするようになってはならないと感じておりますし、それと相まってエネルギーをどこから調達していくのか、また、中国、韓国との関係の悪化、そういった外的要因を少しでも和らげる一助になるよう、議会や、行政といった第三者的交流の輪を広げていく活動が活発に行われなければならないと思っております。そういう思いから、今回もロシアとの友好親善に向け、活発な活動を展開してまいります。



## 市民相談・法律相談のご案内

	日時	会場	担当職員
市民相談	随時	小島たけゆき事務所	小島県会議員
法律相談	毎週水曜日 ※要予約 052(954)6714	県庁 公明党控え室 (東庁舎2階)	公明党県会議員
	第2火曜日 18:30~(20分単位) ※1日6名まで。要予約	豊田市産業文化センター 相談料無料	豊田市 公明市議4名 みよし市 // 2名